

第26号
2014.2

あきた 留学生交流



「秋田の農家民泊」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

あきた 留学生交流

第26号
2014.2

表紙題字
秋田大学教育文化学部
長 沼 雅 彦 名誉教授

C O N T E N T S

1 巻頭言

公立大学法人国際教養大学 理事長・学長 鈴木 典比古

構成員大学からの寄稿

2 海外でも活躍できる人材の育成

秋田県立大学国際交流室 小嶋 郁夫

留学生からのメッセージ

3 こんにちは

ノースアジア大学経済学部3年
金 ウラム (韓国)

4 秋田での留学生活

秋田県立大学
システム科学技術研究科総合システム科学専攻博士後期課程2年
張 興国 (中国)

5 秋田での留学生活

国際教養大学留学生
エンジェル・アコスタ (アメリカ)

6 私の大好きな町・秋田

秋田工業高等専門学校物質工学科5年
スレーントーン プウビライ (ラオス)

7 私の大好きな秋田大学

秋田大学工学資源学研究科材料工学専攻1年
グエンティチュチュイ (ベトナム)

8 留学体験寄稿～秋田から世界へ～

何を見た 何を得た 何を失った

秋田大学工学資源学研究科土木環境工学専攻2年
江村 拓郎 (日本)

9 卒業予定者からのメッセージ

チャレンジして開かれてきた道

国際教養大学国際教養大学国際教養学部グローバル・スタディズ課程4年
ベンジャミン・シュトゥッツ (スイス)

10 留学生交流事業

第三の故郷を見つける農家民泊2013

国際交流団体等の活動紹介

11 あきたのファミリー

(財)秋田県国際交流協会 (AIA)

12 Think globally, act locally

— 今こそ 互いがパートナーに —

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

13 アフガニスタン寺子屋プロジェクト

秋田ユネスコ協会

14 毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

15 県内居住者との交流と相互理解

秋田モンゴル友好協会

16 異文化交流の輪・和・話

国際交流オープンクラス

17 留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校、秋田県立大学、ノースアジア大学、
国際教養大学、秋田大学

19 平成25年度国際交流事業の実施状況

23 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)

住居形態別留学生数 (平成25年10月1日現在)

秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況

(平成25年10月1日現在)

25 平成25年度秋田地域留学生等交流推進会議

推進会議議事要旨

秋田地域留学生等交流推進会議要項

秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

裏表紙

推進会議へのご意見や情報

巻頭言



公立大学法人国際教養大学

理事長・学長 鈴木 典比古

今日では「グローバル化」が頻繁に話題になり、我々日本人は「グローバル化とは海外に出ていくことで、英語で意思を通じ合うこと」だと解釈しがちですが、グローバル化は日本から海外に出て行くと同時に、海外から人々が日本に入ってくることで、すなわち、双方向の人々の流れを意味します。21世紀が進むにつれて日本のグローバル化、双方向の人間の流れがますます進むことは自明のことです。

国際教養大学では2004年の開学以来、教育・研究はもとより、国際貢献・地域貢献活動についても大学の責務として位置付けて大学運営を行っています。図書館、言語異文化学修センター、カフェテリア、カレッジカフェなどの学内施設の一般開放はもちろんのこと、秋田市内のサテライトセンターにおける地域の方々への英語学習支援、本学の教職員による講師派遣、地方自治体からの委託事業の受託、留学生を含む本学の学生と地域住民のみなさんとの交流による地域活性化や異文化交流の推進、県内の高校生の本学での研修など、さまざまな取り組みを通して秋田県の各地域へ新しい風を吹き込んできました。特に本学ではこれまで、2007年

度に八峰町、2009年度に大仙市、2010年度に男鹿市、2011年度に由利本荘市、2012年度に美郷町と国際交流に関する協定を締結し、積極的な交流活動を展開しています。

グローバルな世界で活躍するために日頃勉学に励んでいる日本人学生・留学生にとっては、日本の伝統に根ざした文化・習慣に触れ、親しむことはグローバルとローカルを自分の中に統合させる素晴らしい実践となっています。地域に開かれた大学、地域と共に歩む大学として、「グローバル化」の流れと共に、県境、国境、世代を超えた人々とのつながりを育み、同時に県内出身学生の郷土愛と県外出身学生の秋田に対する新たな見識、そして世界各国からの留学生の異文化理解をより一層深めることに今後も寄与してまいりたいと思っています。

海外でも活躍できる人材の育成

(秋田県立大学国際交流室 小嶋 郁夫)

本学の国際交流は、国際感覚を備えた人材の育成と、本学の教育・研究水準の向上、地域の産業振興や持続的発展への貢献を目的に、海外の大学と大学間・部局間協定を締結し、交流事業を行うことを基盤に進めてきた。

平成23年度からは学生海外派遣事業を開始し、英語圏での語学研修と協定校への短期留学を実施するとともに、平成24年度からはさらに海外でも活躍できる人材の育成を目標に、国際交流の推進体制を整備し、協定校の拡大や交流プログラムの実施、シンポジウムの開催等、多様な国際交流プログラムの実施に努めている。

平成25年度の協定校との交流では、5月に大学間協定を締結した中国・清華大学深圳大学院との間で、6月には同大学院生5名と職員1名を本学に受け入れて研究室訪問や学生交流を行い、9月には本学の大学院生5名と教職員2名を深圳大学院に派遣し、研究室訪問や周辺企業の視察などをいずれも約2週間にわたって行った。

部局間協定校との交流では、生物資源科学部と部局間協定を締結しているカナダ・ゲルフ大学生物科学部のポール・ヘバート教授を招き、7月23日に秋田キャンパスで「分子レベルから見た生物多様性」をテーマに公開シンポジウムを開催した。

また、生物資源科学部と部局間協定を締結しているタイ・カセサート大学農学部へは、8月に学部生8名と引率教員2名を約2週間にわたり派遣して、農業体験や学生交流などを通じてタイの文化や言語などについての理解を深めた。

英語圏での語学研修は、9月に米国・グアム大学で約2週間にわたり行われ、大学院生1名と学部生19名、引率教員2名が参加した。研修では、グアム大学での生物学や歴史、社会学の講義の聴講や地域クリーンアップ活動への参加などが行われた。

これらの国際交流プログラムに参加した学生は、外国人学生との交流によって刺激を受け、自主的な活動を行うなど国際交流への意識も高まっている。したがって、今後のさらなる国際交流の推進により、協定校の拡大を進め、交流の機会を増やしていくことにより、本学の学生が様々な国や地域の学生との交流を通じて自らの可能性を高めていくことが期待される。



清華大学深圳大学院との調印式



グアム大学夏期語学研修

留学生からのメッセージ



こんにちは

ノースアジア大学
経済学部3年

金 ウラム (韓国)

こんにちは。私は韓国から来た金 ウラムと申します。現在ノースアジア大学経済学部3年生に在学中です。初めて秋田に来たのは今から5年前の2008年です。日本語が全然できなかった私はノースアジア大学留学生別科に入り、ひらがなから勉強して、1年後、経済学部に入学することになりました。そして1年生が終わった後、韓国の男性には義務である2年間の懲役制度のために帰国しました。

軍隊にいる間、これからの将来について一度考えてみることになりましたが、悩むことなく秋田に戻って来ることにしました。20年近くソウルという忙しく、複雑なところに住んでいた私は、それとは違う魅力の都市、平和で自然と共に生きる秋田にはまっちゃったからです。そして現在、秋田に戻ってきた私の判断にとっても満足しています。

@秋田で経験したことの中で一番良かったこと
「大曲の花火大会」

映画で見たような場面が私の目の前に現れました。一緒に行った友人はすでに慣れてるように鑑賞していましたが、私はまるで子供のように驚きました。見なくては表現できない花火大会、壮大さという言葉が一番似合うと思います。

朝早くから出発しないといい場所で見られないという友達の話に到着前まで不平を言いましたが、見た後にはなぜこのように全国各地から多くの人々が来るか理解ができました。その夜、私の目に広がる光景は、まだ鮮明です。

@秋田で経験したことの中で一番大切なこと
「ノースアジアラグビー部」

ラグビーをやったことも見たこともない私にはラグビー部に入ったのは大きな挑戦でした。一番好きなことがスポーツ、運動である私ですが、ボールの持ち方や動き方など最初からとても大変でした。しかし、親切に教えてくれる監督と私のミスをカーバしてくれる友人のおかげで、ラグビーというスポーツの魅力にはまるようになりました。一つの目標（優勝）のためのチーム・メンバー全員が一生懸命に努力した思い出は一生忘れられません。今年もノースアジアラグビー部のために頑張ります。





秋田での留学生活

秋田県立大学
システム科学技術研究科総合システム科学専攻博士後期課程2年

張 興国 (中国)

光陰矢のごとし。あっという間に日本での留学生活が4年間経ちました。その中では、喜びもあり、涙もあり、今振り返ればそれら全ては感動でした。

子供の頃、日本を紹介するテレビ番組で富士山・桜・新幹線を見て、日本に対してとても関心を持ちました。私の叔父は若い頃、日本に留学した経験があり、叔父との会話を通じて日本の伝統、文化、日本人の考え方や価値観などへの理解を深め、いつか叔父のように日本留学したいと思うようになりました。中国の大学を卒業した後、憧れていた日本へ留学するために来ました。

秋田に対する初印象は「延々と続く青い山に囲まれて、緑の川が静かに流れてゆく」という自然の美しさでした。しかし、時が経つにつれ、風景よりも素直で親切な秋田の人々であることとを感じるようになりました。来日したばかりの時は、日本語がうまく話せないことを心配し、周りの人と交流する勇気がありませんでした。そこで、研究室の日本人学生の先輩たちが私のために歓迎会を開いて下さり、家族のように温かく接してくれました。この歓迎会を通じて、日本語を話す自信がついてきました。また、大学の先生は、研究に関することや、生活面のささいな問題あっても、熱心に相談に乗ってくれ

ました。その時のことを思い出すと感激で熱い涙が目いっぱいになります。

日本人の中には外国のことが好きな人や外国の文化に興味を抱いている人は沢山いると思います。しかし、様々な要因で、海外に行ったことがない、テレビなどのマスコミだけに頼って、海外のことを認識する人が多いと聞いています。だから、私たち留学生は単に勉強するだけではなく、異国文化への相互の理解を更に深めて、友好の掛け橋になる責任があることを常に意識するべきであると思います。そこで、機会さえあれば除雪ボランティア活動や地域イベントに参加し、地元の子供たちを対象に中国文化の紹介活動を行いました。

秋田での留学生活は残りあと1年ですが、これからもいい思い出をたくさん作って、一日一日を有意義に過ごしていきたいと思います。





秋田での留学生生活

国際教養大学
留学生

エンジェル・アコスタ (アメリカ)

国際教養大学は日本において教養教育のパイオニアです。多様な授業があるため、私も言語の壁をあまり感じることなく専門の経済の勉強を続けることができます。私の大学であるディキンソン・カレッジと同じように、国際教養大学は学生や教員と深い関係を築きあげることができるような小規模なコミュニティです。このようにグローバル教育を受けたり集中的に日本語を学んだりできること、小さなキャンパスで人と関わり合えることがこの大学の魅力でした。さらに、秋田は自然が美しいのです。

私はニューヨークで育ちましたが、田舎の方が好きです。いつも自然や静かで穏やかな環境に囲まれていたいと思っていました。それが秋田に来ることを決心した決め手となりました。この素晴らしい環境のほか、秋田には独特の文化やおもしろいお祭りもたくさんあり、非常に魅力的でした。

留学生活では、多くの方が英語を話せる都市部よりも、地方でよりたくさん日本文化に触れたいと思っています。ここ秋田では、英語が通じないことも多いですが、おかげで地元の人とは私の（まずまずの）日本語スキルを使ってコミュニケーションをとるチャンスがあります。一生懸命日本語で話すことで、より日本文化や

日本人とつながれているような気がします。国際教養大学での最初のセメスターは、たくさんの地域交流活動に参加し、本物の“秋田”を経験することができました。それらの活動は、秋田の観光地を巡ったり、稲刈りをしたりした他、美術館でのボランティアやサンタクロースの衣装を着て子どもたちのために学校を訪れたこともありました。それらの活動を通して、地元の先生や小中学生と交流したことがとても印象に残っています。地域の人々と直接触れ合うことで、彼らも私から英語や異国の文化を学んでいると思いますが、同時に私も彼らから日本語、日本の習慣など多くのことを教わっていることに気付いたからです。また、私は望んでいた豊かな自然や人と人とのつながりとじっくり向き合えるこの環境で学んだり生活したりすることで、自分自身を見つめ直す良い機会となっています。



私の大好きな町・秋田

秋田工業高等専門学校
物質工学科5年

スレーントーン プウビライ (ラオス)

私は2010年4月、ラオスから日本に留学して来ました。アジアだけでなく、世界的にも経済や技術のトップリーダーとなっている日本に来ることができ夢のように思いました。一年目は、東京都内の日本語学校に通い、日本語と専門教科を学びました。日本の首都東京は、ラオスと違い高いビルが多く、どこも人がいっぱいでした。電車やバスも分刻みで走っていて、どこへ行くにも便利な日々を送りました。

2011年4月、秋田工業高等専門学校に編入してきました。中学生の頃から科学に興味があり、物質工学科で学ぶことができ嬉しく思いました。専門科目だけでなく、日本語や歴史の授業もあり、楽しくいろいろな知識を身につけることができました。また、毎週化学の実験などもあり、クラスメートと共に学びながら友情を深めることもできました。

『酵素配合高分子フィルム（酵素フィルム）』というテーマで卒業研究をすすめました。酵素とは、基質特異性及び触媒活性を有するタンパク質です。しかし、水分の少ない環境では簡単に失活してしまいます。その欠点をなくすために、吸保湿性及び成膜性の高いMPCポリマーを酵素と複合化し、フィルム化することによって水分の少ない環境でも、酵素活性を有するフィルムができるようになります。そのことを利用して、気相中の有害物質であるホルムアルデヒドを分解することが可能になります。日本でもラオスでも、酵素フィルムが利用できるようになることを願っています。

高専では勉学のほかに、先生方・先輩・同級生・寮生・他国の留学生たちと、とてもたくさ

ん交流しました。試験終了後カラオケに行ったり、プリクラを撮ったり、おいしいものを食べに行ったりしました。クラス対抗のスポーツ大会では、みんなと一緒に戦い、応援をしたりし、高専祭は学校全体が盛り上がり楽しかったです。自国ラオスの学校では、このようなイベントがないので、貴重な経験ができ、本当にいい思い出になりました。

秋田は東京と違い、人も少なく、静かで大きな町ではありません。でも、優しい心の人たちがたくさんいると思います。初めて会った人でも、親切に声をかけてくれたり、親しくなった人は竿燈祭りや秋田の観光地などを案内して下さいました。私は、日本そして秋田で多くの心優しい人たちに会えて、心より感謝しています。

大好きな秋田での3年間はアツという間でした。私の人生の中の短い期間ですが、私の心に秋田が深く刻まれています。秋田高専卒業後、群馬大学に編入しますが、いつかまた秋田を訪れる日を楽しみに…。

I LOVE AKITA ^^





私の大好きな秋田大学

秋田大学
工学資源学研究科材料工学専攻1年

ゲンティチュチュイ (ベトナム)

私はベトナムから参りましたゲンティチュチュイと申します。秋田大学工学資源学研究科材料工学専攻の一年生です。秋田に来て、5年目ですが、いつからか分かりませんが、秋田、そして秋田大学のことが大好きです。そのため、秋田大学を卒業して、秋田大学の大学院に進学しました。雪が降る期間が長くて、寒く、ここにいることは暖かい国から来た私にとって秋田で生活するのが大変でした。しかし、秋田は寒いけれども、秋田の人の心は暖かいです。今までいろいろなことを乗り越えてきたことは秋田の人に支えられ、いっぱい愛されたからです。

今、2009年の春のことを思い出しました。初めて、秋田に来て、なんにも分からなかったです。その時秋田大学留学生会館に住み、学校から様々な援助を頂きました。留学生の私たちにサポートをしてくれて、生活に慣れるまで面倒を見ていただきました。その時、田村さんという人にいつもお世話をさせていただいて、すごく熱心でいい人でした。私は秋田大学に来てよかったと思いました。学部生の4年間はあっという間に終わって、いろいろな思い出ができました。私は私費外国人で、両親からお金の支援が無く、自分の力でアルバイトをしながら、冬の寒さに負けず、夏の暑さに負けず、勉強に頑張ってきました。それは自分の能力だけでは足りません。いつも、先生方、友達、国際課の方、知り合いの日本人のみなさんに見守っていただきました。心からいつも感謝しております。

その中でも国際課が特別な存在です。最初の秋田に来た時も、今も、その後も。。。私と日本と他の国の掛け橋です。国際課のお陰で私の留学生活は秋田をはじめ、日本の文化、資源などを理解できるようになりました。いろいろな活

動がありますので、私たちは早く生活に慣れ、毎日楽しんで学校に行きます。春夏秋冬の4つの季節でそれぞれ、いろいろな所へ連れて行ってくれました。田沢湖、男鹿などの美しい所で国際的な友達と交流してとても楽しかったです。最近、農家体験に参加させていただき、初めて日本人のお家に泊まって楽しい時間を過ごせたことが本当に良かったです。その体験は私の国でもなかなかできません。そして日本人、中国人、韓国人、アメリカ人、。。。などの友達と交流しながら日本の農家を体験するのは日本で一番嬉しかった活動でした。

私はこれから就職して、日本の会社に入りたいですが、ベトナムと日本の掛け橋になるように頑張りたいと思っております。秋田を離れますが、秋田のことをいつも忘れません。ここで、私は成長しました。ここで国際的な友達の大切さを感じられ、楽しい記憶が出来、どんな遠い空に飛んでも、心の中に持っています。最後に、いつも応援していただく皆様に感謝の言葉をおくりたいです。あと、秋田で一年間過ごすことができるので、一秒一秒を大切に、楽しく送りたいです。





何を見た 何を得た 何を失った

秋田大学
工学資源学研究科土木環境工学専攻2年

江村 拓郎 (日本)

2011年の夏だったか、友人からフィンランドでの交換留学の募集をしていると教えてもらいました。募集人数は全学で2名。箸にも棒にもかからないだろうと思いつつも、小さな頃から外国に住んでみたいと考えていた私は、これが最後のチャンスだと思い、ダメもとで必要書類を提出しました。修士での留学という比較的遅いタイミングになってしまったのは、その意志が漠然としていたからだと思いません。そして幸運にも今回、ようやく私の夢を叶えることができました。実は応募者が私ひとりだけだったということは秘密です。

それからの準備期間、どんなに言葉に困ろうが、食べ物が合わなからうが、そこに行ってしまうばかりか、悲慘なほど楽観的に考えていた私は、渡航当日が楽しみで仕方ありませんでした。外国に行けば、自然と言葉は身につくとさえ考えていました。そして案の定、言葉の壁にぶち当たります。人が言っていることは聞けないわ、自分が言いたいことは言えないわで初めて冷や汗がでました。とんでもないところに来てしまったと途方に暮れたときもありましたが、日本に帰りたいとは思いませんでした。それは友人たちの存在が大きかったからです。彼らが、言葉が拙い私でも、いつも笑顔で迎え入れてくれたおかげで寂しさは少しも感じませんでした。お互い良い関係を築けたのは、彼らの明るい人柄に加え、私自身がある種のピエロになるという自分なりの工夫も功を奏したのではないかと思います。

ます。学校から学生寮に帰り、一人自分の部屋にこもるのは簡単です。しかし、それではいつまで経っても語学力は身につかないし、何より、外国で生活する意味がない。それなら少々恥ずかしいことや、オーバーな表現をすることでいろいろな国の人と笑い合えるなら、その方がずっといい。そう思いました。振り返ってみると、お世辞にも性格が明るいとは言えない私にとって、これは大きな一歩だったと思います。この考え方を武器に、学生だけでなく、本当に多種多様な人々と出会い、知り合い、理解し合うことができました。このことは私の財産です。そこで何を学ぶか、ということも当然重要なことですが、短期留学の場合、誰と知り合い、どう過ごすかといったことに、より重点を置くべきだと私は感じました。

フィンランドでの生活を通して、ここには書ききれない多くのものを得ることができました。一方、失ったものも少なからずあります。帰国後、渡航前のわくわく感や異国への憧憬などが薄れ、より現実的になりました。身の回りの環境も変わりました。これらは当然のことで、むしろ良いことなのかもしれませんが、一抹の寂しさ・虚しさを感じていることは事実です。その分、人として大きくなれたのかもしれませんが、それらすべてを含めた経験を、これからの人生に活かし、邁進していきたいと思えます。最後にこの場を借りて、担当していただいた先生方、スタッフの皆さん、協力してくれた友人たちにお礼を申し上げます。





チャレンジして開かれてきた道

国際教養大学
国際教養学部グローバル・スタディズ課程4年

ベンジャミン・シュトゥッツ (スイス)

私は小さい頃から日本の文化に関心を抱いていて、2007年から現在まで留学の形で日本に滞在しています。最初は高校生として来日し、そのときはまだ日本語を一切勉強したことがありませんでした。現在は国際教養大学国際教養学部の4年生ですが、授業はすべて英語なので日本語の授業は高校3年生で最後でした。

2010年に国際教養大学に入学して、1年間はまず大学生活に慣れるために、他の正規学生と同じように英語での授業にチャレンジしました。日本に来る留学生は恐らく留学生活が落ちつくまでしばらく時間がかかるでしょう。私もこの頃は卒業後のことなどまだ考える余裕はありませんでした。

2年生になって、中華人民共和国へ1年間留学に行くことになりました。再び留学の楽しさや、異国の地を冒険する魅力に吸い込まれ、あっという間に3年生になってしまいました。日本に帰国すると、すぐにキャリアセンターから就職活動を促すメールが届き、それから数えられない程の就職説明会に参加しました。日本で長く住んで、それに国際教養大学の正規学生であるため、日本で就職することが当たりまえのように考えたからです。どんなに辛くても、とりあえずチャレンジをしてみようと思っていました。日本はほとんどの国と違い、大学生の間に仕事を探すことが普通であるため、在学中に内定をもらわないといけないということに焦りを感じました。その上、SPIや、ウェブテストなど初めて経験することがたくさんあって、とても不安でした。一時はテストの問題集を見て、日本での就職活動を諦めようと思ったほどです。

しかし私はチャレンジを続けました。留学生向けの就職エージェントから紹介される会社を一つ一つチェックし、自分に合うと思った会社にどんどんエントリーしました。積極的に面接を受け続け、昨年5月には海外展開もしている日本の医療機器メーカーから内定をいただくことができました。4月からはいよいよ正社員として勤め始めます。母国スイスと日本との架け橋になりたいと願っていたので、海外転勤も可能な会社で働けることになりとても嬉しいです。日本には留学生枠を設けている会社もたくさんあるので、チャレンジしてみれば誰にでも成功のチャンスはあります。日本の会社で働きたいと思っている留学生のみなさん、頑張ってください！



第三の故郷を見つける農家民泊2013

秋田地域留学生等交流推進会議では、秋田県仙北市西木町において五度目となる農家民泊事業を実施しました。今年度は「第三の故郷を見つける農家民泊 2013」と題し、秋田県内の留学生、日本人学生と地域農家の方々がグリーン・ツーリズムを通じて交流を深めました。

本事業では、二回の農業体験プログラム（農業体験ツアー、収穫感謝祭ツアー）を実施。10月5日、6日の「農業体験ツアー」では各農家に分かれ、農作業と農家民泊を体験しました。農作業では、栗拾い、里芋掘り、人参掘り、苔玉作りを行いました。当日は様々な農作業や日本の伝統的な家屋での生活を体験させてもらい、充実した秋田での農家民泊となりました。また、そば打ち、きりたんぼ、ゆべしの他、様々な料理作りを手伝い、参加した留学生らは秋田の食材を使った農家さんのアイデア料理と心配りに感動していました。二日目は各農家で太巻きやおにぎりなど特製お弁当を作り、「かたくり館」で交流会を開きました。その後、二日間の農家民泊体験をポスターにまとめ英語と日本語で発表し、それぞれの体験を共有しました。仙北市役所担当者のお誘いで、蕎麦の無料試食

のついた「赤そば祭り」に参加させていただき、蕎麦の実がなる風景を背景に皆で記念撮影を行いました。

11月5日の「収穫感謝祭ツアー」では同じメンバーで再会。参加した留学生、日本人学生にとっても、ほぼ初めてとなる餅つき体験の他、アルバム作成を行いました。アルバムは農業体験ツアーの写真を用いて10月の各々の体験を振り返りながら、心をこめて作成。お世話になった農家さんへプレゼントしました。各グループで様々なアイデアと思いが込められたオリジナル溢れるアルバムに、農家さん達も大変喜んでくれる様子が伝わってきました。

今年度から日本人学生にグループリーダーをお願いし、留学生と農家の方々の架け橋になってもらいましたが、予想していた以上に各々の持ち味を発揮して円滑な運営ができたため来年度もこのような取り組みを続けていければと思います。そして、アンケート等からも日本人学生留学生を問わず、実家に帰ったようなとても温かい気持ちになったとの声があがり、「第三の故郷を見つける農家民泊」のテーマ希望に叶う体験になったようです。



あきたのファミリー

■ (財)秋田県国際交流協会 (AIA)

公益財団法人秋田県国際交流協会は、在住外国人向けの様々な事業を実施しております。その中の「あきたのファミリー」事業を紹介します。

この事業は、文化の違いについて外国人留学生と県民の相互理解を深めることを目的として、県内の大学に在籍する留学生にホストファミリーを紹介し、交流を行っていただく事業で、平成18年度から実施しています。留学生には、地域の一般家庭との交流を通じて日本や秋田の習慣、文化などの理解を深めてもらいます。また、ホストファミリーには、この事業で出会う留学生を通じて出身国のことなどを知り、異文化を体験してもらいます。

平成24年度からは、ファミリーと交流したいという学生の意志を尊重した申込形態をスタートさせました。学生が申込するタイミングを自由に決め、当協会のホームページから申込をし、マッチングの決まったファミリーと交流

を始めます。2013年12月末日現在のファミリーと留学生のマッチング数は55組でした。ファミリーからも学生からも楽しく交流を進めていると感想をいただいております。

ファミリーと留学生のさらなる交流、そしてファミリー同士の交流や意見交換などを目的に、12月21日にクリスマス交流会を開催しました。今年はアルゼンチンの国紹介と中国の正月についてのプレゼンテーションを実施し、国際理解を深めました。多数の質問が飛び交い、異文化を知ろうとする活発なものとなりました。国際交流に関心を持つ人々が集まることによって、秋田県の国際交流の枠がさらに広がった交流会でもありました。

秋田県国際交流協会は県民と外国出身者の両方が住みやすい「多文化共生社会」を構築するため、これからも各種事業を展開してまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いします。



クリスマス交流会にて

Think globally, act locally

— 今こそ 互いがパートナーに —

■ 秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

薫風さわやかな5月「2013年度 総会及び研修会」が秋田ビューホテルを会場に開催された。今年度は「今こそ 互いがパートナーに」のテーマのもと時代に即した新たな活動を考える第一歩として地区活動に期待を込めて決意を新たにスタートが切られた。

総会に引き続き研修会「映画上映会」が行われ、今、世界が注目するアウンサンスーチー。その激動の半生と孤独な闘いとノーベル平和賞受賞の裏側にあった、家族の愛の物語『The Lady アウンサンスーチー引き裂かれた愛』を上映。「自由、平和、平等、家族の絆」について考える、有意義な時間となり、581名の来場者の皆様と共に共有できたことは大変嬉しい。

11月には活動の柱である「わびえ奨学プラン」贈呈式を県中央男女共同参画センターに於いて開催。将来母国と日本の架け橋になりたいと勉学に励んでいる学生への贈呈事業である。過去22年間で91名の留学生に支援している。今年度は秋田大学生(中国・韓国)2名。秋田県立大学生・本荘キャンパス(中国)1名・国際教

養大学生(台湾)1名・計4名に支給。

先日、秋田大学のパートナー的存在の元奨学生より「大学祭」への招待を受けた。各国の異文化伝統料理のブースが並び、留学生たちが、異文化ショックを乗り越えて逞しく、いきいきと活躍している姿を拝見し、また留学生との交流の深まりとその成長ぶりに感動した一日でした。

12月には秋田地区「ハンドinハンドさよなら2013」～ご当地グルメスイーツとお茶でこんにちは～を開催。10ヶ国の在住外国人や留学生と共に多文化交流ができた。

3月には由利本荘市の伝統行事、桃の節句「ひなまつり交流会」を開催。イベントを通して在住外国人・留学生、また被災者家族との相互理解と交流ができた。

3月「わびえ研修・交流と地区報告会」開催。

その他、国際協力活動として「慶州・ナザレ園」への交流・支援、「幼い難民を考える会」への支援、海外医療活動への支援、NHK助け合い募金や国際募金活動への協力など数々の国際的な視野に立っての活動をすすめている。



2013年度秋田大学留学生卒業パーティーにて



「わびえ奨学プラン」奨学金贈呈式



AIA「あきた国際フェスティバル2013」



「ハンド in ハンドさよなら2013」

アフガニスタン寺子屋プロジェクト

■ 秋田ユネスコ協会

秋田ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の精神の普及を図り、世界の平和に貢献することを目的に、国際理解活動、国際協力活動を行っている。

2013年度は、例年実施している外国人による日本語スピーチ・コンテスト、アフガニスタンの教育支援のための活動、東日本大震災の被災地の子どもたちの「学び」を支援する募金活動などに加えて、ユネスコ世界自然遺産登録20周年の白神山地を探訪し、世界遺産の価値、魅力を探った。また新たに、ユネスコ活動をコース層に広めることを目的に、1月に高校生を対象にセミナーを実施する。

30年以上にわたる戦争により、学校や教育システムが破壊されてしまったアフガニスタンでは、字の読み書きができないまま大人になった人がたくさんいる。2012年の統計ではその率が約66%、世界で最も非識字率の高い国の一つである。

日本ユネスコ協会連盟では、識字率の低い国々に教育の場を作り、識字率向上や職業訓練をする運動「ユネスコ・世界寺子屋運動」を行っている。秋田ユネスコ協会も1995年からこれに取り組み、2005年からはアフガニスタンを支援している。

アフガニスタンといえば私たちに聞こえてくるニュースは紛争ばかり、私たちの教育支援はどんな意義があるのだろうかとの疑問に思うことが多い。そこで秋田大学のアフガニスタン留学生、ラマテウラ・アフマディ氏とアシャク・フセイン氏に4月13日「アフガニスタンは今」と題して講演して頂いた。いまなお厳しい問題が多々あるが、「アフガニスタンはとても美しい国です。紛争だけの国ではありません。もう10年できっとすばらしい国になります。」と述

べられた。もっと頑張らなければと思わせる言葉だった。



9月28日アトリオンで実施された国際フェスティバルでは、アフガニスタン支援のバザーを行い24,000円の収益金を得た。

11月からは「書き損じはがき回収運動」を開始した。学校や公共施設に書き損じ回収ボックスの設置を依頼し、できるだけ多くのはがきを集めたいと思っている。1月25日～26日には「書き損じはがき回収キャンペーン」をぼぼろ～どで実施する。書き損じたはがき、出さなかった返信はがきなどを寄付してもらい、それを郵便局で切手に変え日本ユネスコ協会連盟に送る。2012年度には3,467枚のはがきを回収することができた。アフガニスタンでは、はがき222枚で1人が一年学ぶことができるという。今年度は昨年度より一枚でも多く回収し、アフガニスタン支援を強化していきたいと活動している。



毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

秋田県日中友好協会では、毎年留学生や技術研修員等との様々な交流事業を実施しております。

秋田地区日中と県日中女性委員会では、毎年合同で中国留学生秋田地区学友会の会員を招いて友好交流事業として4事業を実施しています。

4月は、「お花見」として公園でバーベキューを実施していますが、今年はいにくの雨に見舞われ留学生会館での実施となりましたが、留学生及び協会会員合わせて約70名が参加しバーベキューパーティーを実施しました。

10月には、中国の建国記念日である「国慶節を祝う会」を秋田市内のホテルで開催、今年2月には中国の新年（暦の元旦に合わせて実施）を祝う「春節を祝う会」を市内ホテルで開催しました。

両事業には留学生約40名、協会会員等40名の合わせて約80名が参加し、ゲームやカラオケ、ゲストを呼んでのイベントなどで楽しく交流をしています。

例年7月に夏の事業を計画していましたが、

今年は大学のオープンキャンパスの事業と重なり、急遽中止になったのが残念でした。

秋田地区協会以外でも各地区協会でも活発に交流事業が行われています。7月には能代市日中友好協会「浜辺交流会」、にかほ市日中友好協会では「西施まつり」、9月には横手市日中友好協会「ぶどう狩り」を行い、技術研修員や会員・市民などとの交流が行われています。

また、9月には県日中女性委員会で日本の伝統文化である茶道を体験する「浴衣茶会」を、会員宅の茶室をお借りして実施したほか、県日中と女性委員会、学友会の3団体がアトリオンで開かれた「国際フェスティバル」に並んでブースを開設、それぞれの活動紹介やバザー、中国の紹介などを行いました。

昨今、日中両国の関係がぎくしゃくしている中ではありますが、私たちは市民レベルでの友好関係を築くため、遠く国を離れて秋田で暮らす中国人を温かく迎え、信頼関係の中で長く友好交流事業を進めています。



国慶節を祝う会



浴衣茶会



県内居住者との交流と相互理解

秋田モンゴル友好協会

秋田モンゴル友好協会は、県内に居住しているモンゴル人との交流と相互理解、そして秋田での生活が快適なものになるように支援することを中心に活動しています。

現在は秋田大学・同大学院・研究室および交換留学生在が13名とその家族9名。国際教養大学に1名と交換留学生2名。県立大学に1名。秋田高専に1名。本荘第一病院の研修医1名とその家族2名の計30名が居住している。さらに26年度秋田大学に入学希望者が3名受験する予定になっている。こんなに多くのモンゴル人が秋田に居住していることは大変喜ばしいことであり、協会の存在意義も増してきています。

6月には、秋田市内で定期総会を開催、全員を招待し終了後の懇親会では、会員との懇談を通じて楽しい時間を過ごした。7月には、モンゴルの伝統の野外料理「ホルホグ」（ミルク缶

に羊1頭分の骨つき肉を焼いた石と交互に入れ蒸し焼きにする）を味わう会をモンゴル人が企画、南由利原高原の青少年旅行村に1泊し、しばし遊牧民の気分を味わった。7月末から当協会の設立10周年記念事業として、モンゴルを訪問、現地のモンゴル秋田友好協会のメンバーから盛大な歓迎を受け、さらなる友好の促進を誓った。

また、竿燈見物や会員家庭へのホームステイを通じ日本文化への理解を深めてもらった。さらに他団体主催の世界のファッションショー・国際フェスティバルや料理教室や学童保育での文化交流にも積極的に参加しモンゴル文化の紹介に努めた。特筆すべきは、11月の秋田ユネスコ協会主催の外国人による日本語スピーチコンテストで、昨年に続きモンゴル人が最優秀賞に輝くという快挙を成し遂げました。



ホルホグ



ファッションショー



竿燈見物



外国人による日本語スピーチコンテスト

異文化交流の輪・和・話

国際交流オープンクラス

国際交流オープンクラスは、秋田在住の外国の人たちの「学んだ日本語をもっと使える場が欲しい」「自分の国ことを多くの人に伝えたい」「日本の文化を知りたい」「日本料理を覚えたい」「母国の料理を食べて欲しい」の思いに応えることから始まりました。

1990年9月に発足し、今年25年目をむかえる草の根のボランティア活動グループです。

グループのモットーは、いつも「オープン・ひらかれていること」「アット・ホーム」です。常に、楽しい異文化交流をめざしています。

25年度の主な活動は、《私の国・あなたの国の食文化シリーズ》と国際交流フェスティバルへの参加でした。

食文化シリーズでは、秋田工業高等専門学校の留学生たちを講師に招き、マレーシアのカレー料理・ロディラジャ・オンデオンデ、タイの家庭料理教室を開き、珍しい料理に参加した市民に喜ばれ、交流を深めました。県のフェスティバルでも留学生たちと交流の輪・和・話を広げました。

(代表 伊藤晴美)



留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校

【秋田高専留学生の活動紹介】

本校は、平成3年度に最初の留学生を受け入れ、これまで多くの留学生が秋田高専を巣立っていきました。入学してきた留学生に対し、1年間の日本語教育（週6時間）の実施、チューター、留学生指導教員の配置など、きめ細かな留学生教育を行っています。

○外国人による日本語スピーチコンテスト

秋田ユネスコ協会が主催するもので、平成25年度は優秀賞と奨励賞を受賞しました。

○学校の枠を越えた外国人留学生研修(秋田開催)

東北地区高専が合同で実施するもので、平成25年度は秋田高専が幹事校として実施されました。
(秋田高専HP <http://www.ipc.akita-nct.ac.jp/>)



学校の枠を越えた
外国人留学生研修（秋田開催）



スピーチコンテスト

秋田県立大学

【大学の取組み】

秋田県立大学では、大学院生を中心として留学生を受け入れています。少人数教育の特長を活かして留学生の入学から、在学中の生活支援や卒業、就職までをサポートし、きめ細やかな教育指導を行っています。

勉学の間を利用して留学生たちは国際交流サークルの日本学生と一緒に地域交流活動に励んでいます。4月に行った田植えでは、農家の方と一緒に汗を流して農作業の大変さを実感しました。6月には菜の花祭りに支援スタッフとして、乗馬の補助係等を担当し来場のこども達を喜ばせました。

7月には由利本荘市の小学生と田んぼの中でサッカーや綱引きをし、大学院生であることを忘れ、童心に返って楽しむことができました。このほかにも除雪のボランティアや、出身国の食文化の紹介など様々な活動を通じて、地域の方々との交流を積極的に図り、充実した留学生活を送っています。



ノースアジア大学

【ノースアジア大学活動紹介】

ノースアジア大学では、現在台湾の真理大学から4名の交換留学生を受け入れています。留学生はそれぞれ経済学科と観光学科に所属し、日々日本語能力のみならず経済・観光の勉学に励んでいます。

また、学園内の学生交流プログラムなどにも積極的に参加し、在學生と国境を越えた友情を育てています。
(ノースアジア大学HP <http://www.nau.ac.jp/>)



国際教養大学

【Meet the People in Akita】

国際教養大学では、これまで5市町一八峰町・大仙市・男鹿市・由利本荘市・美郷町一と異文化交流に関する協定を結び、留学生の派遣、児童・生徒の大学訪問の受け入れなど、双方向の交流を進めてきました。これらの自治体を通じた交流の他にも、クリスマスや節分などのイベントでの就学前児童との交流、小・中学校との英語活動や異文化理解を中心とした交流、地域の農作業や伝統行事を体験させていただきながらの地域の方々との交流などを行っています。今後も、留学生が秋田の人々に出会い、様々な体験を共有できるよう、さらには地域とともに歩んでいけるよう、積極的に交流活動を展開していきます。

(国際教養大学HP:<http://web.aiu.ac.jp>)



地域でのクリスマスパーティ



小学校で英語活動



稲刈り体験

秋田大学

【留学生等交流実地見学旅行】

留学生等の日本文化に対する理解を深めるとともに、留学生等同士の間での交流を図るため、7月6日・7日の1泊2日の日程で、本学の外国人留学生24名が参加し県北・仙北地域を中心に留学生等交流実地見学旅行を実施しました。

【日本のもちつき】

もちつきやお供え作りなどを体験してもらい、日本の伝統文化に触れるとともに地域のみなさんとの交流を深めることを目的として行っており、毎年年末の恒例行事です。

この他、スキー研修や農家民泊、留学生とランチなどの行事を実施しています。秋田大学国際交流センターホームページのEVENT REPORTでは実施行事を掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/>



平成25年度 国際交流事業の実施状況

地方自治体・国際交流団体

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書は、 参加留学生数	事業の内容	
1	甘肅省技術研修員等受入事業	秋田県	H25.9中旬～ H26.2中旬	1	友好協定を締結している中国・甘肅省から研修員を受け入れ、(公財)秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行うことにより、帰国後はその技術、知識を活かし、自国の発展に貢献するとともに、甘肅省との友好関係を深める。また、県民との交流活動を実施することで地域の国際化を促す。	
2	南米ネットワーク構築事業		H25.9中旬～ H26.2中旬	2	在南米秋田県人会の推薦を受けた人材を研修員として受け入れ、(公財)秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行い、県人会の後継者として育成する。また、県民との交流活動を実施することで地域の国際化を促す。	
3	環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業 (注:主催は秋田県環日本海交流推進協議会交流部会)		H26.2.14	環日本海圏 出身留学生 25名	将来の環日本海交流を担う県内留学生を対象に、本県の文化・産業を紹介する施設や観光地等を案内し、同地域の若い世代の秋田県に対する理解向上を促進する。	
4	中国天津市青少年交流事業		H25.8	12	県内中学生12名を天津市に派遣し、現地の中学生と卓球を通じた交流を行う。	
5	ロシア専門家受入事業		H25.12～H26.2	3	友好協定を締結しているロシア沿海地方から医療分野、農業分野、自動車整備分野の専門家を受け入れ、県内専門機関での研修を行う。	
6	ロシア青少年交流事業		H25.10	7	ロシア沿海地方ウラジオストクにある極東連邦大学の学生を招へいし、国際教養大学をはじめ、県内高等教育機関等の視察を通じた交流を行う。	
7	あきたのファミリー	公益財団法人秋田県国際交流協会	通年	57組	ホストとなる県民を募集し、留学生との交流を行う。	
8	あきた国際フェスティバル2013		H25.9.28	4,371 (135)	在住外国人や国際交流団体による活動紹介やステージパフォーマンスを行う。	
9	あきたのファミリーファミリークリスマス交流会		H25.12月上旬(予定)	45	ホストファミリーと留学生が一同に集い、交流会を行う。	
10	にほんごでおはなし		通年	19組	在住外国人に日本語でコミュニケーションをしてくれるボランティアを募り、国際交流を行う。	
11	異文化交流スペースの運営		通年	221(1)	主に在住外国人による県民への講座を通じて外国の言語、文化などに触れる機会を提供する。また同時に国際交流を図る。	
12	天津市青少年友好交流事業		H25.8.7～H25.8.12	19	秋田県内の中学生を天津市に派遣し、地元の中学生と卓球を通じた国際交流を行う。	
13	ロシア青少年交流事業		H25.10.19～ H25.10.26	9	ロシアからの大学生5名を受け入れ、県内視察やホームステイなどを行う国際交流事業。	
14	甘肅省技術研修員等受入事業		H25.9～H26.2	1	秋田県と友好関係にある甘肅省より技術研修員を受け入れ、秋田県内で様々な研修を行うことにより、帰国後はその技術、知識を活かし、自国の発展に貢献する。また一般県民との交流を通じて相互理解を深める。	
15	南米ネットワーク構築事業		H25.9～H26.2	2	秋田県から南米に移住した移民による秋田県人会より、技術研修員を受け入れ、秋田県内で様々な研修を行う。帰国後はその技術、知識を活かし、自国の発展に貢献する。また一般県民との交流を通じて相互理解を深める。	
16	ロシア専門家受入事業		H25.11～H26.2	3	ロシア沿海地方より農業分野、医療分野等の専門家を受け入れ、研修を行う。	
17	青少年ハンガリー友好交流訪問団派遣事業		H25.7.28～H25.8.5	22(0)	友好都市であるハンガリー・ヴァーツ市を市長、市議会議長、市内中学生、引率者が訪問し、意見交換やホームステイなどを通して相互交流を図る。	
18	第24回日口沿岸市長会議・日口沿岸ビジネスフォーラム (注:ビジネスフォーラムは日口沿岸市長会、ロ日極東シベリア友好協会、(社)ロシアNIS貿易会、(公財)環日本海経済研究所による共催)		由利本荘市	H25.8.20～ H25.8.22	3(0)	日本海沿岸をはじめとする地域とロシア連邦極東シベリア地域との親善友好と経済協力を促進し、両地域の発展を図ることを目的として、両地域諸都市の経済・観光分野を中心に情報発信・意見交換を行う。
19	蘭州市秋田市代表団記念式典等訪問事業			H25.10.24～ H25.10.30	7	蘭州市の招聘により、友好都市提携30周年記念式典に出席する。(平成24年度に実施予定だったが延期となっていたもの)
20	蘭州市小中学生囲碁交流事業		秋田市	H25.10.24～ H25.10.30	9	蘭州市において、両市の小中学生が囲碁対局を通じた交流を行う。
21	米国アラスカ州キナイ半島郡交流推進事業	H25.7.9～H25.7.14		75	両市の交流に尽力されている関係者の「市の記念日」特別感謝状受賞にあわせ、記念講演および祝賀会を開催した。また高校生とのバレーボール交流を行った。	
22	蘭州市医療研修員受入事業	H25.10.21～ H25.12.19		2	蘭州市から医療研修員2名を受け入れ、市立秋田総合病院で2ヶ月間研修を行う。	
23	地域国際化推進事業(日本語教室)	毎週木曜日		28	外国人住民の基礎的な日本語習得を促進するため、日本語教室を開催するもの。	
24	英語指導助手活用事業	通年		19	英語を母国語とする外国青年を招致し、英語教育におけるコミュニケーション能力の向上のため、市内中学校および高等学校に英語指導助手(ALT)として派遣する。	
25	日独スポーツ少年団同時交流事業	H25.7.30～H25.8.3		9	青少年の教育の一環として、両国の少年団員がスポーツ・文化等についての訪問学習を行い国際的な視野を持った青少年の育成を図る	
26	日本語教室	通年		440	在住外国人向けの日本語教室 金曜日の10時から12時、15名程度/年44回	
27	明海大学留学生招待事業 (秋の横手体験)	横手市(男女共同参画・市民協働推進室)	H25.10.12～ H25.10.14	(10)	明海大学に通う留学生が横手でホームステイ体験を行う	
28	明海大学留学生招待事業 (冬の横手体験)		H26.2	(10)	明海大学に通う留学生が横手でホームステイ体験を行う	
29	国際交流かまくら	横手市(観光物産課)	H26.2.14～ H26.2.16	未定	横手市の冬の伝統行事であるかまくらと国際色豊かなかまくらの融合をさせることで国際文化交流を行う。	
30	秋田大学留学生横手市農業体験ツアー	横手市(市長公室)	H25.6.8～H25.6.9	31(24)	横手市で農家民泊を体験するとともに、グリーンツーリズムに参加して農業を体験するとともに、伝統文化にも触れるなどして横手の魅力を感じてもらおうというもの。	
31	増田のまちなみ見学	横手市(伝建推進室)	H25.6.23	16(8)	横手市増田地区のまちなみや、まんが美術館を見学し、留学生や県外出身の学生からの視点でさまざまな意見をもらうもの。	

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
32	日本語講座	能代市	H25.4～ H26.3	40	市内在住の外国出身者が、日常生活に必要な日本語の会話及び読み書き、日本や地域の文化を学ぶ
33	日本語指導ボランティア養成講座		H25.4～ H26.3	20	日本語指導法の基礎を学ぶ
34	ふれあい交流事業		H25.4～ H26.3	45～300	盆踊り会、お茶会などを通じて、市民と日本語講座参加者の交流を行う
35	外国語指導助手(ALT)派遣事業		H25.4～ H26.3	2	国際化の進展に対応するため、外国青年(外国語指導助手)を派遣し、能代市における英語教育及び国際理解教育の充実を図る
36	月例研修会	にかほ市 日中友好協会	年4回	各回15名程度	国籍を問わず活躍されている方を講師として開催する研修会。各回異なる講師をお願いし、国際交流への理解を深める機会としています。
37	西施まつり		H25.8.4	約30	蛸満寺、象潟公民館において開催。松尾芭蕉の俳句で詠まれた中国四大美人の1人「西施(浙江省諸暨市)」を縁とした事業。
38	アナコーテス市中学生交流派遣事業	アナコーテス 交流協会	H25.7.28～ H25.8.6	16	にかほ市在中の中学生12人と引率4人が姉妹都市であるワシントン州アナコーテス市を訪問。ホームステイを通じて交流を行う。
39	国際料理交流会		H26.2.15	約60	秋田県在住の外国人を講師とした料理交流会。
40	ショウニー市中学生交流受入事業	ショウニー 交流協会	H25.8.1～ H25.8.6	11	姉妹都市オクラホマ州ショウニー市から中学生8名と引率3名の受入。ホームステイを通じて交流を行う。
41	ショウニー市中学生交流派遣事業		H25.10.22～ H25.10.29	17	にかほ市在住の中学生14名と引率3名が姉妹都市であるオクラホマ州ショウニー市を訪問し、ホームステイを通じて交流を行う。旧仁賀保町時代から数えて23回目の派遣事業
42	国際交流展	にかほ市 国際交流協会	H25.11.2～ H25.11.4	会場来場 予定 約6,000名	市文化祭会場において、市内各国際交流協会が交流についての事業紹介の展示を行う。
43	八峰町国際交流事業	八峰町	H25.5.8	45(10)	町内小学校AIU訪問
			H25.5.18	20(11)	オリエンテーション及びシーカヤック体験
			H25.6.21	210(10)	町内中学校での授業(英語・総合)
			H25.6.22	50(10)	ホームステイ・ジオパーク(海岸クリーンアップ及び須崎海岸見学)
			H25.7.12	530(10)	町内各小中学校での授業(英語・総合)
			H25.7.13	70(10)	滝ノ間海岸に末広小学校と釣り体験及びタイムカプセル作り
			H25.9.7	70(15)	子ども園の運動会に参加。
			H25.10.9	50(10)	町内中学校AIU訪問
			H25.10.13	30(10)	ホストファミリー AIU訪問
			H25.10.18	210(8)	小中学校での授業(英語・総合)
			H25.10.19	150(8)	ホームステイ・子ども園及び町内見学
			H25.10.23	30(10)	町内小学校AIU訪問
			H25.10.24	40(10)	町内小学校AIU訪問
			H25.11.7	34(10)	町内小学校AIU訪問
			H25.11.15	450(8)	町内小中学校での授業(英語・総合)
			H25.11.16	50(8)	ホームステイ・子ども園での交流。
H25.12.13	320(12)	町内小中学校での授業(英語・総合)			
H26.1.25	30(10)	伝統文化交流会「餅つき及び書道体験」			
H26.2.14	100(10)	町内小中学校での授業(英語・総合)			
H26.2.15	50(10)	ホームステイ・子ども園での交流。			
H26.3.8	50(10)	地域住民との交流「外国のランチづくり」			
44	国際教養大学との交流事業	男鹿市	通年	1,408(65)	男鹿市内の小・中が国際教養大学の留学生との交流を通じて、外国語や外国の文化に理解を深め国際感覚の優れた人材育成を目指す。交流会、イングリッシュキャンプ、国際教養大学訪問
45	外国語助手招致事業		通年	3	英語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内の小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進を図る。
46	日本語教室		月2～3回程度(土曜日)年間28回程度開催予定	210	在住外国人の方を対象に日本語の書き方、読み方、風習、日本文化等を学ぶ。
47	中学生海外研修	大館市	H26.3下旬 7泊8日(予定)	15	大館市内の中学生による海外研修 内容 ホームステイ、学校での交流
48	日本語教室		毎週月・水曜日 (2時間)	25	月曜日:17:30～19:30 水曜日 10:00～12:00 大館市に在住の外国人を対象とした日本語教室
49	大館市国際交流助成事業	大館青年会議所	H25.6.12～ H25.6.15	6	韓国ウルチュ青年会議所との交流事業 (大館市国際交流助成金を活用した国際交流)
50	大館市国際交流助成事業	大館市 (個人参加)	H25.7.30～ H25.8.6	1	世界マスターズゲームス(イタリア)への出場を通じての国際交流 【ウェイトリフティング日本代表】 (大館市国際交流助成金を活用した国際交流)
51	国際教養大学交流事業	大館市	第1期 H25.5.20～H25.7.22	837(46)	大館市内の幼稚園・保育園児、小学校児童、中学生生徒が国際教養大学の留学生とさまざまな交流(来校・来園及び大学訪問)を行う。生徒たちは留学生を通して、直接異文化に触れる体験ができ、また、互いに異なるものを受容する心やコミュニケーション能力を養うことができる。
52			第2期 H25.9.12～25.12.20	1,693 (187)	
53	韓国国際交流員による出前講座	大館市国際 交流協会	通年	957	大館市韓国国際交流員による市民対象の韓国文化に関する出前講座を開催。
54	韓国LABO青少年スタディツアー		H25.8.1～ H25.8.8	8	韓国LABOが主催するキャンプやホームステイに参加し、日本と韓国の歴史・文化・生活習慣の違いなどを体験する。
55	韓国LABO青少年受入事業		H26.2.3～ H26.2.10	8(予定)	韓国LABOから派遣される青少年が大館市を訪問し、ホームステイや日本文化体験、スキー体験などを行う。
56	国際フェスティバルin大仙		H26.2.16	会場来場 3,000	在住の外国人や国際交流・協力を行っている団体などと一緒にイオン大曲を会場にステージパフォーマンスやブース展示などを行う。

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
57	日本語教室	藤里町国際交流協会	毎月2回(隔週水曜日)年24回開催	18(0)	町内在住外国人に無料で日本語教室を開催。
58	留学生への援助金	国際ソロブチミスト	H25.4～H26.6	1	秋田大学留学生へ1年間援助金贈呈
59	国際フェスティバル		H25.9.28	会員	フェスティバル参加の方と交流・バザー
60	日本語によるすぴーちこんですと	日中友好協会		1	秋田ユネスコ協会へ協賛金と賞状の授与
61	桜に親しむ会		H25.4.27	50	秋田大学等の中国留学生を招いての観桜会(雨天～留学生会館)
62	浴衣で茶会		H25.9.22	25	秋田大学等の中国留学生を招いて浴衣を着て茶会での交流会(秋田市市内会員宅)
63	国慶節を祝う会		H25.10.5	80	秋田大学等の中国留学生を招いて国慶節を祝う会(秋田市ホテル)
64	春節を祝う会	H26.2	90	秋田大学等の中国留学生を招いて春節を祝う会(秋田市ホテル)	
65	2013年度総会・研修会 映画上映『The Ladyアウンサンスウチャー 引き裂かれた愛』	秋田県国際交流をすすめる女性の会(わびえ)	H25.5.12	総会63 映画581	テーマ学習 Think globally, act locally. ～今こそ 互いがパートナーに～ 被災地復興の願いをこめて、今、世界が注目するアウンサンスウチャーの激動の半生と孤独な闘いを支えた家族の愛の物語『The Ladyアウンサンスウチャー引き裂かれた愛』を上映。681名の在住外国人や一般市民との共有の機会を得た。
66	「ハーモニーフェスタ2013」～私らしい 幸せのかたち～		H25.6.29	150 わびえ6	一人ひとりが個人として尊重され能力を発揮し、喜びも責任も分かち合い、あらゆる分野で可能性を広げ、自己実現が出来る社会づくりを目指す。
67	国連の立場から「女性が主役のまちづくり」		H25.8.10	150 わびえ7	「私たち一人ひとりの意識が社会を創ります」女性の視点を活用する大切さなど現場の経験を通しての講演。
68	横手市・南部男女共同参画センター祭り		H25.9.21	250 わびえ6	一般市民への男女共同参画への関心・理解を深めながら交流の場をつくる。バザー、わびえお茶席参加。
69	「日本国際連合協会秋田県本部講演会」		H25.9.25	100 わびえ5	演題「ロシア情勢について」国際教養大教授 名越健郎氏 「北朝鮮拉致問題について」国際教養大教授 梅原克彦氏
70	AIA「あきた国際フェスティバル2013」		H25.9.28	参加団体 30 わびえ7	県国際交流協会主催で30団体参加 県内在住外国人と一般市民との交流、ブース出展・活動紹介パネル展示。 チャリティ活動。テーマ「日本の伝統文化についての紹介」
71	国際交流・大仙市 グランドゴルフ大会		H25.10.6	22(14)	グランドゴルフを通して在住外国人と交流。
72	栄公民館祭り		H25.10.13	230 わびえ3	地域活動への参加・横手市 ブース出展 チャリティ活動
73	「秋の稔りフェア」		H25.10.26～H25.10.27	21(13)	地域活動への参加・大仙市地区 ブース出展 チャリティ活動。
74	「米まつり」協賛参加		H25.10.26～H25.10.28	38	地域活動への参加・由利本荘市 ブース出展 チャリティ活動。
75	「ハーモニープラザまつり2013」次世代 につなげよう！一歩踏みだす、男女共同参画		H25.11.9～ H25.11.10	500 わびえ7	登録団体との相互理解と一般市民への男女共同参画への関心・理解を深めながら交流の場をつくる。ワークショップ、活動紹介パネル展示、ブース出展、チャリティ活動。
76	2013年度「わびえ奨学プラン」奨学金 贈 呈式		H25.11.16	21(4)	県内の私費女子の留学生に対し奨学金を支給。秋田大学留学生2名(中国・韓国) 秋田県立大学留学生1名(中国) 国際教養大学留学生1名(台湾) 計4名へ支給。
77	「ハンドinハンドさよなら2013」		H25.12.15	61(34) 内子供5	クリスマス交流会。在住外国人や留学生と共に伝統文化について学び合い、理解を深める。
78	世界の料理講習会		H26.2予定	未定	在住外国人、留学生と共に世界の料理を学び合い、理解を深める。湯沢地区交流会。
79	第21回ひなまつり交流会		H26.3.2	未定	由利本荘市の伝統行事の「ひなまつり」を体験、イベントを通して在住外国人また、被災者家族との交流。
80	ひなまつり交流会		H26.3.2	未定	大仙市の伝統文化行事「ひなまつり」を開催。イベントを通して在住外国人との交流。
81	平成25年度総会		H25.6.1	32(15)	平成25年度当会総会・終了後留学生および家族を交えて懇親交流会を開催
82	ホルホグを味わう会		H25.7.14～ H25.7.15	28(21)	モンゴルの伝統的な野外料理「ホルホグ」(羊1頭をミルク缶で蒸し焼きにする)を味わう。
83	モンゴル訪問		H25.7.29～H25.8.3	5	協会員がモンゴルを訪問。元留学生らと旧交を温める。
84	竿灯見物		H25.8.4	17(10)	秋田の竿灯を案内。
85	新年を祝う会	H26.2予定	未定	モンゴルの旧正月を祝う予定。	
86	国際理解講座	H25.4.13	35(3)	秋田大学国際交流センター准教授西田文信氏を講師に、「幸福度世界一の国ブータン～心の龍を育てるために～」と題して講演会を開催。	
87	ユネスコ・交流亭	H25.7.3	22	白神山世界遺産登録20周年を記念して、白神探訪。青森県西目屋村にて研修。	
88	国際フェスティバル	H25.9.28	6	秋田県国際交流協会主催の事業に参加。活動紹介及びチャリティバザーを実施。	
89	外国人による日本語スピーチ・コンテスト & 民族衣装でこんにちは	秋田ユネスコ協会	H25.11.24	120(40)	I部 外国人による日本語スピーチ・コンテスト、留学生等13人が出場。 II部 「写真から学ぶ世界の食卓」というテーマで国際理解のワークショップを実施。
90	ユースプログラム		H26.1.19	30	高校生を対象に、国際理解セミナーを実施。
91	アフガニスタンの教育支援		H25.9.28	6	募金活動、バザー、書き損じはがき回収キャンペーンなどによって得られた資金を、日本ユネスコ協会が実施する世界寺子屋運動を通して、アフガニスタンの文字を読めない人たちの教育を支援する。
92			H26.1.25～ H26.1.26	20	
93	エコ・バッグづくり	H25.8.25	6(1)	環境問題を考えながら新聞でエコ・バッグを作る	
94	国際交流デー・フェスティバル	国際交流 オープンプ ラス	H25.9.28	14(9)	活動紹介をしながら交流
95	マレーシアとタイ料理教室		H25.10.20	23(10)	秋田高専の留学生が講師になり、カレーやロティ・ラジャヤオンデ・オンデを作る
96	第2弾 マレーシアとタイ料理教室		H26.2.2	予定	マレーシア・タイ料理

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
97	「あきたのファミリー」ホームステイ・ホームビジット受け入れ	一般財団法人言語交流研究所ヒップファミリークラブ	随時複数回	1家族(5)	ノルウェー(2)韓国(1)ボツワナ(1)シンガポール(1)からの留学生がホームステイ
98	定例活動にて留学生との交流		ホームステイ受け入れ随時	15(5)	多言語音楽に合わせてゲーム 各国語での自己紹介
99	ソウル高校学生ホームステイ受け入れ		H25.7.12～ H25.7.13	1家族(2)	秋田県教育委員会主催・韓国ソウル高校生受け入れ
100	JICA研修生 ホームステイ受け入れ		H25.8.3～H25.8.4	1家族(1)	フィリピンからのJICA研修生
101	秋田国際フェスティバル2012		H25.9.28	13	秋田県国際交流協会主催 クイズと多言語視聴コーナー
102	ハロウィン交流会		H25.10.20	18(2)	アルゼンチン、中国の研修員、留学生が参加
103	クリスマス交流会		H25.12.8(予定)	18(4)	研修員、留学生とゲーム、会食、懇談等
104	新年交流会		H26.1.12(予定)	18(4)	研修員、留学生とゲーム、会食、懇談等

大学・高専

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
1	八峰町との交流プログラム	国際教養大学	5.8, 5.18, 7.12, 7.13, 10.18, 10.19, 11.15, 11.16, 12.13, 1.25, 2.14, 2.15, 3.8	37(35)	平成19年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。八峰町内の子ども園、小学校、中学校を本学学生(日本人学生および留学生)が訪問し、英語クラスやイベントに参加するなどして、異文化交流を推進している。八峰町内でのホームステイや、小・中学生が大学を訪問しての交流も行っている。
2	大仙市との交流プログラム		5.28, 5.30, 6.20, 6.21, 6.28, 7.3, 7.4, 7.5, 7.10, 7.11, 7.12, 7.18 x2, 7.19, 8.2, 9.12, 9.18, 9.26, 9.27, 10.16	95(89)	平成21年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。大仙市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校と本学留学生とが交流。大仙市内へ出向いたり、児童・生徒が本学を訪問するなど、双方向の交流を行っている。
3	男鹿市との交流プログラム		5.10, 5.17, 5.31, 6.10, 6.28, 7.4, 8.1, 8.2	65(65)	平成22年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。男鹿市内の小・中学校を本学の留学生が訪れ、英語による交流活動を行っている。
4	由利本荘市との交流プログラム		6.28	13(12)	平成23年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。由利本荘市内の小学校を中心に、小学生と本学留学生との異文化交流を実施している。
5	美郷町との交流プログラム		9.24	8(8)	今年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。美郷町内の小・中学校を本学の留学生が訪れたり、小・中学生の大学訪問を受け入れたりしながら英語による交流活動を行っている。
6	雄和新波地区との交流		5.8, 6.1, 6.2	26(24)	秋田市雄和新波地区との農作業等を通じた交流活動。
7	サテライトセンターとのカンパセーションパートナー(講座)		毎週土曜日	43(43)	秋田市内明徳館ビル二階にあるサテライトセンターでの活動。毎週土曜日に一般利用者が外国語の習得を兼ねて留学生と交流をする。英語のみならず、中国語・韓国・フランス語・ドイツ語と多様な言語を開講しており、それぞれの言語を母語に持つ留学生たちが講師役を務める。
8	角館・田沢湖バスツアー		4.27	133(66)	田沢湖、刺巻ミズパショウ、角館さくら祭り、武家屋敷等を回るバスツアー
9	男鹿半島バスツアー		6.22	111(95)	なまはげ館、伝承館、入道崎、男鹿水族館GAOを回るバスツアー
10	歌舞伎鑑賞ツアー		7.8	103(67)	秋田県民会館で松竹大歌舞伎を鑑賞するツアー
11	角館・田沢湖バスツアー		9.8	165(146)	田沢湖、武家屋敷、観光やまぶっつけを回るバスツアー
12	男鹿【杜の賑わい】観賞ツアー		10.5	125(102)	寒風山、入道崎を回り、男鹿市民文化会館で【秋田・男鹿 杜の賑わい】を観賞するツアー
13	男鹿・紫灯まつり		2.8	未定	なまはげ紫灯まつりを観賞するツアー
14	大学祭		H25.7.6～H25.7.7	4(0)	大学祭において所属ゼミ・団体の催し物に参加し、地域の方々との交流した。
15	クリスマスパーティー	H25.12(予定)	8(3)	寮のクリスマスパーティーに留学生も参加	
16	スキー体験	H26.02(予定)	4(3)	秋田県内のスキー場でスキー体験	
17	がれき撤去ボランティア(宮城県荒浜地区)	秋田県立大学	H25.5.11	50(7)	被災地の復興支援ボランティア。農地のがれき撤去を行う。
18	田植え体験		H25.5.25	14(8)	日本の農業に関する理解と食の大切さを学ぶ。農家の方々との交流を図る。
19	菜の花まつりボランティア		H25.6.1～H25.6.2	152(10)	由利本荘市が主催するイベントの運営支援を通じて、地域貢献活動を行う。
20	ボート体験		H25.6.15	12(9)	地域に根ざしたスポーツであるボートを体験する。ボートを通じて市民との交流を図る。
21	稲刈り体験		H25.10.14	5(2)	地域の子供達と一緒に稲刈りを体験。
22	平成25年度 学校の枠を超えた外国人留学生研修	秋田工業高等専門学校	H26.1.11～ H26.1.13	33(29)	東北地区の高専の留学生の研修、交流会。 今年度は秋田高専で開催。
23	平成25年度 夏の留学生実地見学旅行	秋田大学	H25.7.6～H25.7.7	24(11)	主に県北・仙北地域を回り、秋田県の自然・文化を体験した。
24	グローバル夢ミーティング		H25.8.3～H25.8.4	12(6)	大学から留学生を派遣して、東成瀬村の小中学生と交流。
25	平成25年度 外国人留学生スキー合宿		H26.2.22～ H26.2.23	未定	外国人留学生向けのスキー合宿を実施予定。
26	平成25年度 冬の留学生実地見学旅行		H26.2(予定)	未定	秋田の伝統行事を体験する旅行を実施予定。

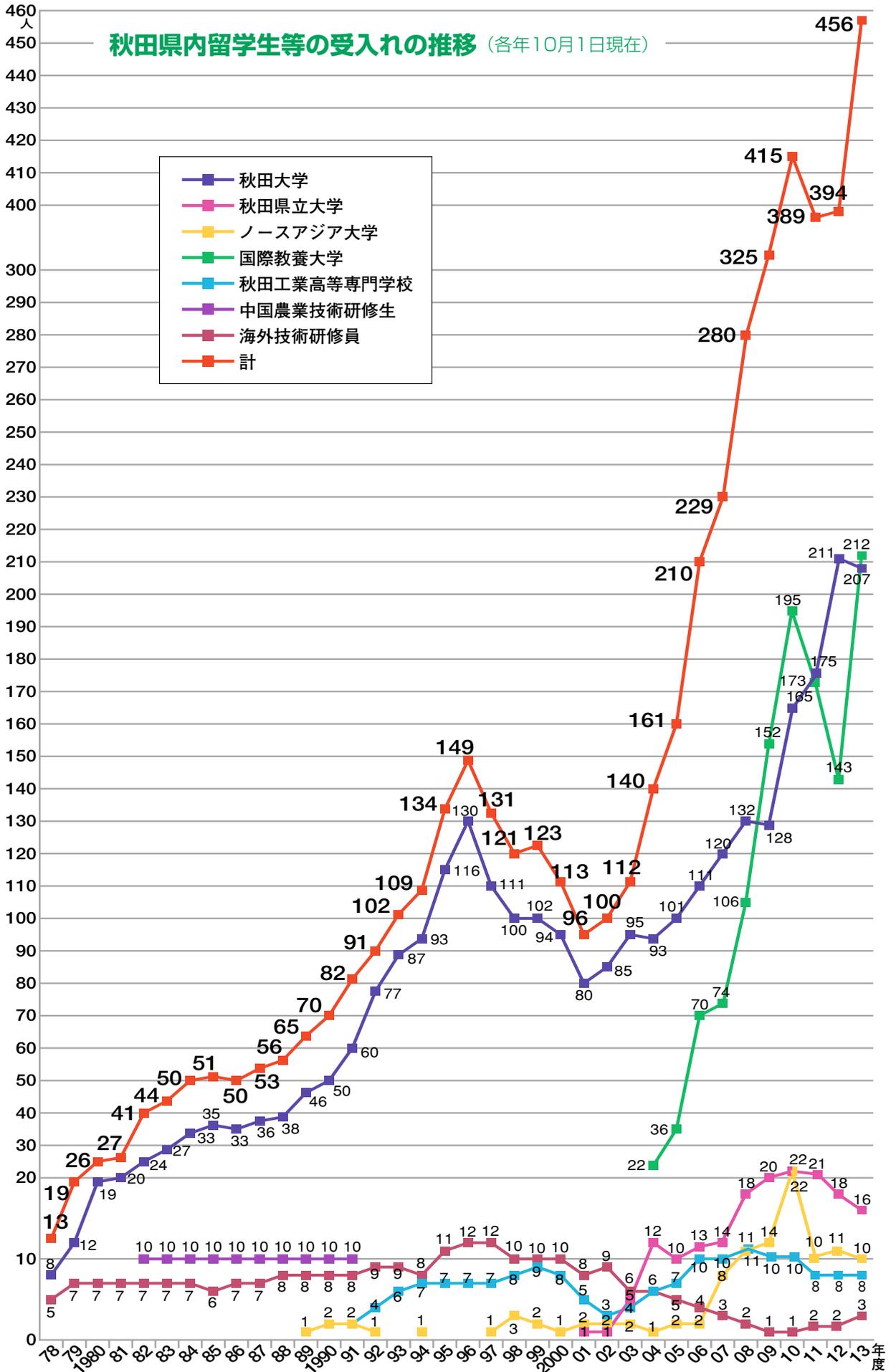
【注1】参加者の()欄については内数で留学生を示しています。また、H25.10.1現在把握の人数で記入しています。

毎週や隔週行っている行事の「参加者」の欄については累計で記入しています。

【注2】事業名欄については、留学生参加の有無に関係なく国際交流に関連するもの全てを記載しています。

留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)



住居形態別留学生数 (平成25年10月1日現在)

住居別	学校等別	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 学 校	秋 田 県	合 計
留学生用宿舎		81(49)			202(112)			283(161)
大学等の学生寮		13(0)		6(3)				19(3)
秋田県職員宿舎								
公営住宅								
民間下宿・アパート		113(42)	16(7)	3(0)	1(0)		3(0)	137(49)
民間企業の社員寮								
ホームステイ								
その他				1(0)	9(0)	8(6)		18(6)
合 計		207(91)	16(7)	10(3)	212(112)	8(6)	3(0)	456(219)

注：() 内は内数で女性を示す。
*海外から留学中の日本人学生4名を除く

秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成25年10月1日現在)

地域・国名	機関名等	秋田大学	秋田県立 大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 学 校	秋 田 県 (海外技術 研修員)	計	地域別 割 合
ア ジ ア	中国	76	15	3	7		1	102	61.0%
	香港				2			2	
	台湾	3		4	18			25	
	マレーシア	35			1	5		41	
	韓国	17		2	10			29	
	ベトナム	32			2			34	
	モンゴル	11	1		4	1		17	
	インドネシア	6						7	
	フィリピン	2						2	
	タイ	2			2	1		5	
	ラオス					1		1	
	バングラデシュ	1						1	
	シンガポール				6			6	
	カンボジア	1						1	
	インド	1						1	
ブルネイ				4			4		
ミャンマー				1			1		
計		187	16	9	57	8	1	278	
ア フリ カ	ケニア	2						2	2.6%
	ボツワナ	3						3	
	ブルキナファソ	1						1	
	ジンバブエ				1			1	
	モロッコ				2			2	
	エジプト	2			1			3	
計		8	0	0	4	0	0	12	
オ セ ア ニ ア	オーストラリア				2			2	0.6%
	パプアニューギニア	1						1	
	ソロモン諸島							0	
	ニュージーランド							0	
計		1	0	0	2	0	0	3	
中 東	アフガニスタン	3						3	0.8%
	イスラエル	1						1	
	計		4	0	0	0	0	0	
北 米	アメリカ	2			63			65	17.3%
	カナダ				6			6	
	メキシコ				8			8	
計		2	0	0	77	0	0	79	
中 南 米	ブラジル				4		1	5	1.8%
	ペルー	1						1	
	アルゼンチン						1	1	
	ウルグアイ			1				1	
計		1	0	1	4	0	2	8	
ヨ ー ロ ッ パ	イギリス				12			12	15.8%
	イタリア				1			1	
	ノルウェー				15			15	
	オランダ				1			1	
	ドイツ				7			7	
	フランス				7			7	
	スウェーデン				5			5	
	ポルトガル				2			2	
	チェコ				3			3	
	スイス				1			1	
	ルーマニア	3			1			4	
	ロシア	1			1			2	
	ラトビア				2			2	
	リトアニア				3			3	
	ブルガリア				1			1	
フィンランド				6			6		
計		4	0	0	68	0	0	72	
合 計		207	16	10	212	8	3	456	100%

平成25年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日時 平成25年12月4日(水) 16:15~17:15

会場 秋田大学一般教育1号館会議室

議事に先立ち、秋田地域留学生等交流推進会議議長の吉村昇秋田大学長から挨拶の後、各委員の自己紹介があった。

議題

(1) 協議事項

①平成24年度決算報告と平成26年度「地域留学生交流推進会議」事業計画(案)について

事務局から協議資料を基に決算報告があり、了承された。なお、補足説明としてノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田大学260,000円をそれぞれ負担していることの報告があった。

平成26年度の事業計画(案)について、事務局から冊子作成経費を見直し、10万円支出を抑え、また、秋田地域留学生等交流推進会議懇親会については参加留学生を増やす方針で素案を作成していること等説明があり、審議の結果、了承された。

②秋田地域留学生等交流推進会議の事業費負担について

平成25年度の会議で秋田工業高等専門学校からも事業費負担する旨確認し、今回「申し合わせ」を見直すこととなった経緯について説明があった。協議の結果、提案資料の内容で了承された。

③秋田地域留学生等交流推進会議要項(一部改正)について

秋田地域留学生等交流推進会議運営会議と推進会議を統合することが平成25年12月の会議で了承されたため、推進会議の要項について遡って一部字句を修正すること、また運営会議要項を廃止することが了承された。

④その他 なし

(2) 報告事項

①平成25年度学校等別外国人留学生受入数等について

事務局から、報告資料1に基づき平成25年10月1日現在の受入人数等について説明があった。

②秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の実施状況について

事務局から報告資料2の説明があり、各高等教育機関から報告があった。

【ノースアジア大学】

主に中国・韓国と姉妹校として交換留学の制度を進め、交流を深めていることの報告があった。

【秋田県立大学】

国際交流を推進しており、夏に語学研修をアメリカに派遣して行っていること、さらに、中国・韓国などの大学と大学間交流協定を締結してこの説明があった。清華大学深圳大学院から5名を6月に2週間ほど受け入れ、9月に10日ほど派遣していること、タイのカセサート大学(農学部)と学部協定を結び、毎年交互に学生交換を行っているが今年は学生8名を派遣して色々な体験を行っていること等の報告があった。

【国際教養大学】

44か国158大学と協定を結んでおり、交換留学生が主な在籍学生であること、ほぼ全員が日本人学生と同じ寮に住んでいること、正規の学生については留学が義務付けられていることなどの説明があった。212名が35か国から来日しており、特色としてはアジア1/3、ヨーロッパ1/3、アメリカが1/3で地域別にバランス良く来ていること、台湾、アメリカ、イギリス、ノルウェーから2ケタの学生が来日しているとの補足説明があった。また取り組みとしては273日交流(内訳として230日地域の学校と交流、43日が地域住民との交流)していること等報告があった。

【秋田工業高等専門学校】

現在、東南アジアから8名(マレーシア政府派遣5

名、ラオス1名・タイ1名・モンゴル1名)在籍している。フランス・フィンランドと短期の受入派遣を行っており、今年は4月から6月にフランスから3名、フィンランドから9月から2月2名受入している。派遣については、フランスに3名派遣している。東北地区の高専間で学校の枠を超えた留学生研修を今年度は秋田高専が主体となって来年1月に実施予定であること等の報告があった。

【秋田大学】

10月1日現在で208名の学生が在籍していること、大学間交流協定校の数については10月1日現在47大学となっているが、11月にマレーシアのマラヤ大学と、またチリのサンチアゴ大学と協定を結び49大学と協定を締結していることの報告があった。今年度はタイに海外拠点事務所を設置したこと、夏に王立ブータン大学を訪問し、今後は医療面で交流を深めながらブータンの医療に貢献していくと考えていることなどの補足説明があった。目標である留学生数の200名達成を達成できた一方で、留学生宿舎の老朽化など宿舎問題もあり、今後も宿舍費補助などの支援を継続して協力していただきたい旨発言があった。

【秋田県】

海外技術研修員として中国と南米から5か月ほど受け入れており、秋田大学で日本語を学んでいること等の報告があった。

秋田県の留学生支援について平成16年から取り組んでいる「AKITA留学生交流サポート事業」があることの説明があった。県では県民との国際交流活動に積極的に参加する私費留学生に補助を行う高等教育機関に助成しており、留学生と県民との交流活動を活発にすること等を目的として行っている。内容としては、居住費支援と国民健康保険加入支援の2つとなっており、以前は留学生へ直接補助を行っていたが、事務手続き簡略化のため、留学生を支援する高等教育機関への間接補助方式としている。

また、環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業として、環日本海地域からの留学生を2月頃に県内の文化施設・観光地等へ案内し、秋田県への理解を深める事業を行っていることなどの説明があった。

③平成25年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊」の実施報告について

事務局から、報告資料5より本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に応募し、採択された助成金を基に、第1回目の「農業体験ツアー」を本年10月5・6日に、第2回目の「収穫感謝ツアー」を11月9日に仙北市西木町で実施した旨の報告があった。

④日本学生支援機構から留学生交流事業等について

日本学生支援機構の東北支部長から、留学生地域交流事業等について応募・採択状況等の説明があり、平成26年については未だ要項ができていないため、ホームページ等をみていただきたい旨説明があった。フォローアップ事業・研究指導事業、また留学生向けのメルマガを発信していること、就活ガイドについても新しいものが今月中に発行されることなどの紹介があった。

⑤その他 なし

(3) その他 なし

(4) 閉会

その後、場所を移して行われた留学生との懇親会では、吉村昇秋田地域留学生等交流推進会議議長の挨拶の後、参加留学生からスピーチが披露されるなど、始終和やかな雰囲気のなか行われ、盛会裏に終了した。

秋田地域留学生等交流推進会議要項

(設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

(委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 秋田地域の関係大学等の長
- 二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名
- 三 学識経験者 若干名

2 委員は、議長が委嘱する。

(役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。

2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 議長は、推進会議を招集する。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

(顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

(委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(運営委員会)

第7 推進会議の円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。

2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8 推進会議の事務は、秋田大学国際課において行う。

(雑則)

第9 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成25年12月4日から実施し、平成25年4月1日から適用する。

秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成21年12月18日

(趣 旨)

1. 秋田地域留学生等交流推進会議要項第9の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

(事業費)

2. 推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

大 学 名	負担金
ノースアジア大学	80,000円
秋田県立大学	80,000円
国際教養大学	80,000円
秋田大学	260,000円

(事業年度)

3. 推進会議の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(負担金の納入)

4. 負担金の納入は年1回とし、納入に係る事務は秋田大学国際課において行う。

附 則

この申し合わせは、平成22年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成25年12月4日現在

区 分	所 属	職 名	氏 名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所 長	永 澤 耕 一
	秋田県	知 事	佐 竹 敬 久
	秋田県市長会	会 長	穂 積 志
	秋田県町村会	会 長	齋 藤 正 寧
経済団体	秋田市	市 長	穂 積 志
	(一社)秋田県経営者協会	会 長	藤 原 清 悦
	秋田県商工会議所連合会	会 長	三 浦 廣 己
	秋田県中小企業団体中央会	会 長	塩 田 謙 三
	秋田県商工会連合会	会 長	村 岡 淑 郎
国際交流関係団体	秋田県農業協同組合中央会	会 長	木 村 一 男
	(公社)秋田青年会議所	理 事 長	加 賀 屋 久 人
	秋田ロータリークラブ	会 員	江 島 清 彦
学識経験者	秋田国際交流団体連絡会	会 長	佐々木 正 光
	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	神 田 佳 和
大学・高専	秋田魁新報社	代表取締役	小笠原 直 樹
	ノースアジア大学	学 長	小 泉 健
	秋田栄養短期大学	学 長	小 泉 健
	聖霊女子短期大学	学 長	平 垣 ヨシ子
	聖園学園短期大学	学 長	青 木 光 子
	秋田県立大学	学 長	小 間 篤
	国際教養大学	学 長	鈴 木 典比古
	秋田工業高等専門学校	校 長	山 田 宗 慶
	秋田看護福祉大学	学 長	田 中 禮 子
	秋田大学	学 長	吉 村 昇

秋田地域留学生等交流推進会議運営による 資金貸与制度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

- 目的**
この制度は、秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専（以下「大学等」という。）に在学する私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生が緊急に必要とする資金について、申請に基づき貸与を行い、生活援助を図ることを目的とする。
- 内容**
民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、緊急に必要とする資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。
- 貸与金額**
貸与金額は、10,000円を単位とし、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。
- 申請**
貸与を必要とする者は、貸付金申請書（別紙様式1）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
- 選考**
本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が選考する。
- 貸与**
貸与は申請者が所属する大学等の長を通じて行い、貸与を受けるにあたって、借用証書（別紙様式2）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
- 返済期限**
貸与を受けた者は、貸与を受けた月の翌月から起算して10か月以内に返済しなければならない。ただし、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
- 返済方法**
貸付金の返済方法は、一括払い及び分割払い（10回を限度）とし、分割払いについては、いつでも繰り上げて返済することができるものとする。
- 返済の猶予**
貸与を受けた者が、疾病、災害等やむを得ない事由により返済が困難になった場合は、返済猶予申請書（別紙様式3）を提出することにより返済を猶予することができる。ただし、その場合であっても、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
- 事務**
貸与に関する事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務局である秋田大学国際課が行う。
- その他**
この要項に定めるもののほか、貸与に関する必要な事項は、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が別に定めることができる。

附 則

- この要項は、平成13年11月28日から実施する。
- 秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

附 則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年12月17日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

(別紙様式1)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度 貸付金申請書	
申請金額・事由 1. 予約金 2. 資金 円	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
指導教員等の意見	(所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付を受けたので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏 名) 印	

(別紙様式2)

借 用 証 書	
借用金額	金 円
上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として、借用しました。 については、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従い、下記のとおり滞りなく返済いたします。	
記	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 借受人 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏 名) 印	

(別紙様式3)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度貸付金 返済猶予申請書	
猶予申請事由	
返済猶予金額	円
返済猶予期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
指導教員等の意見	(所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付金の返済を猶予していただきたいので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏 名) 印	

■■■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■■■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」(毎年2月下旬発行)を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。



「第三の故郷を見つける農家民泊2013」では仙北市西木町の農家のみなさんと交流を深めた。

あきた留学生交流 第26号

(2014.2発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局
(秋田大学国際課)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
TEL (018) 889-2856 FAX (018) 889-3012
E-mail kokusai@jimu.akita-u.ac.jp